

**デイケアプログラムにおける
役割分担の重要性
～ 映画委員会の活動を通して～**

**医療法人耕仁会札幌太田病院 2階デイケア課
大熊扶美子 亀井千賀子 渋谷武 石崎直樹 山下佳代子
北島朝子 小野修一 大西直拓 太田秀造**



はじめに

思春期対象デイケアの通所者数と疾患

- 登録人数：129名（男性71名、女性58名）
- 平均年齢：39.8歳、SD = ±11.64(15歳～76歳)
- 疾患：気分障害、ひきこもり、摂食障害、統合失調症 他

平成21年4月現在



はじめに

通所者による9つの委員会

- 観光委員会
- スポーツ委員会
- 音楽委員会
- ゲーム委員会
- 図書委員会
- お買い物委員会
- 食器棚管理委員会
- 就労委員会
- 映画委員会

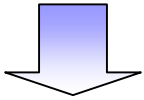


映画委員の構成

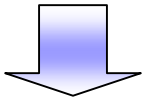
- 委員人数：8名（男性5名、女性3名）
- 平均年齢：34.5歳
- 疾患：気分障害2名、不安障害1名、
統合失調症5名

映画委員会の活動内容

- 企画：上映映画の決定・情報収集・ポスター作成・案内文作成等



- 広報活動：ポスターの貼り出し・朝や帰りの会での案内



- 上映映画のレンタル：レンタルショップにDVDを借りに行く



- 映画鑑賞：会場作り・呼びかけ・機械操作・片付け



- グループワーク：企画や当日の運営についての反省

活動の様子



ポスター紹介

子ぎつねヘレン

ぜひ見てね♡

日時
11月26日(水)

時間
13:00~14:30

場所は、ケア室1です

あらすじ
道ばたでじとしていた子ぎつねを見つけた女一子ぎつねも放してあげた。たが一は家に連れて帰ることにします。目の前ですらふ。でも夢も立てても、まったく戻らないこの子ぎつねは目も耳も不自由だったので…。

ぜひ見て下さい。

映画委員会

映画委員会

僕の名前は、マッティモン。この映画は、僕が作った映画だよ!

精神分析医役のロビン・ウィリアムズです。

グッド・ウィル・ハンティング

[あらすじ]
深い心の傷を負った天才青年と、同じ失業の中にいた精神分析医がお互いにあつた。自立を自覚して成長して秋姿を描く感動のヒューマン・ドラマ。

10月1日(水)

10:00~13:00まで(お昼のみです)

ぜひ見て下さい。

活動経過

発足当初・・・**受身的**

職員からの指示待ち

映画を楽しむのみ

～ミーティング、作業等委員会活動～

現在・・・**能動的**

特性を活かした役割分担

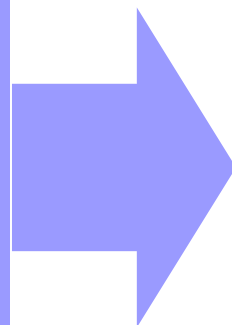
鑑賞会に参加する人のニーズに応える

活動を通しての参加者の変化

A氏（20代男性、気分障害）

～活動前の様子～

- 昼夜逆転の生活で、デイケアはいつも遅刻をしていた。
- 自分の気持ちを上手く伝えられず、イライラ・被害感から職員、通所者への暴力、自傷行為がみられた。



～活動開始後の様子～

- 自分の役割に責任を持つようになった。
- ミーティングに参加するためデイケアの遅刻が減った。
- 相手の長所に注目し、他者を受け入れられるようになった。



まとめ

当院デイケアにおける段階的支援の流れ

期：通所に慣れ、自分の調子の悪さやニーズに気づく。

期：対人交流、ニーズの充足を学ぶ。

期：社会復帰に向けて他者貢献。

まとめ

就労・進学をめざす
Ⅱ～Ⅲ期の通所者に対する援助

他者との交流

役割を担う

適度な心理的負荷

責任感

意欲・自信の向上・主体性・協調性
ボランティア・就労意欲

社会復帰



まとめ

デイケアでは、個人の持つ長所が発揮できるプログラム活動が重要と考える。今後も、通所者の希望に沿いながら創意工夫しつつ、より質の高い支援を継続していきたい。